防災連絡会議だより

２８号　（令和６年３月７日）

発行　北斗市防災連絡会議

活断層の脅威！　　北斗市を縦断する函館平野西縁断層群！

令和 ６ 年（辰年）の最初の通信です。最初の通信では災害のない平和な年を願うのですが、元日の能登半島地震、２ 日には飛行機事故が起き、心が痛みます。能登半島地震の被災地の早期復旧と復興を望むとともに、飛行機事故の再発防止をお願いしたいと思います。

地震、津波、土砂災害、洪水、火山噴火など異常な自然現象（災害対策基本法）が短い間隔でどこかで発生していますので、今年も地域での防災活動を市と連携して展開していきたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

役員立候補へのお願いと総会開催のお知らせ

令和６年度の総会は５月１１日（土）に開催予定です。令和 ６ 年は北斗市防災連絡会議にとっては、設立 10 年目の年です。また、役員改選の年でもあります。次の世代に活動を引き継いでいきたいと思いますので、立候補をお願いいたします。立候補される方は、３月１９（火）までに連絡会議の事務局まで電話等でお知らせください。

令和６年度北斗市防災連絡会議総会（案内）

日時　令和６年５月 11 日（土）　午前 10 時より

場所　北斗市総合文化センター　２階　中会議室

能登半島地震に思う

高橋悦郎（研修部長）

元日（１月１日）、１６時１０分ごろ、M7．６の大地震が石川県能登地方に発生しました。正月ということで、どこの家庭でも家族揃って、テレビを見たり帰省中の家族を囲み和気あいあいと楽しんでいる時、テロップや臨時ニュースでこの地震のことが流れました。もちろん、能登半島のどこの家庭でも帰省した家族を囲み、楽しい正月を過ごすはずだったと思います。それから毎日のようにニュース番組で報道される被害の大きさ、押しつぶされた家々、火災で焼失され焼け野原化した地域、私たちがこれまで幾度となく見聞きしてきた大地震（北海道南西沖地震、北海道胆振東部地震、兵庫県南部地震等）より何か悲惨な地震だったような思いがするのは、私だけではないと思います。

また、海岸線が数メートルの幅で広くなった地域もあれば、漁港の海底が隆起してしまったニュースを見ると今までの地震と異なる、自然の力の恐ろしさをわなわなと感じせざるをえません。この地震から２か月たった今日（３月１日）、ニュースでは未だに１万人以上の人たちが避難所生活を強いられいるという。そして私が一番恐ろしいと思うことは１万８，８００戸もの家屋が断水の状態にあるということです。

鹿磯漁港の隆起（能登半島）産総研 HP

私は、地域住民に防災を呼びかける立場で、

一人１日２リットル×３本の水を備蓄するよう話していますが、ライフラインがここまで遮断されているとは。これらの問題は、個人や地域・町会だけの問題ではないと思います。はっきりとした目に見える形での国や自治体の支援をお願いしたいと思います。

能登半島地震の被災地に入った松平さんの現地報告（寄稿）

救命のリレー普及会 理事　松平真一さん

ふれあい福祉まつり in 北斗で、日赤のボランティア団体と一緒の部屋で活動をしています。その時にお会いした松平さんに防災連絡会議の通信への寄稿をお願いしました。松平さんは１月６日から１月 12 日まで被災地（珠洲市、七尾市、穴水町、能登町）で活動をされています。その時の被災地の状況についての報告です。

☆☆☆★★

北海道から支援物資（非常食や非常用水、簡易トイレなど）を持っていき、現地で救急活動をしました。主に、災害地点から病院や救護所、避難所までです。

その中で、私が印象に残っているのは避難所運営の悪さです。まず、トイレが最悪です。水が貴重でしたので、トイレが流されていません。臭いが酷く、それを原因に避難者がトイレを我慢します。これにより、体調を崩したり、浮腫が著明になる方などがありました。

また、「目の前で妻が生き埋めになった。俺は何も出来なかったんだ。もう何十年も一緒にいた。最期がこんなだとは」と涙ながらに語ってくださいました。

また、災害地点に出場したところ複数人が心肺停止になっていた現場もありました。胸骨圧迫しても押すことができません。（硬直が始まっています。）

「助けたくても助けることができない。救いたくても救えない。」と言うところが一番強かったです。　☆☆彡

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

シリーズ１　大野小学校の史跡説明版　木村文助大野小学校長と「村の子供」

この春休みに、大正時代に大野小学校で校長をされた木村文助と三木露風の書籍を数冊読みました。これらの書籍の中に、自然災害に関する記述があるのではないかと考えていたのです。予想が的中し、木村文助の書籍には、昭和４年の駒ケ岳噴火と避難の様子についての記述が、三木露風には関東大震災後に東京を訪れた時の記述がありました。

駒ケ岳は昨年 12 月から火山性地震が続いていて、火山噴火予知連絡会は、火山活動がやや活発化する傾向と評価しています。有珠山とは違い、いつ噴火するかわからないのが駒ケ岳の特徴です。次回は昭和 4 年の駒ケ岳の噴火についての記述を紹介します。北斗市の史跡説明版については、大野文化財保護研究会の HP をご覧ください。　＜上野廣幸＞

きじひき高原パノラマ展望台から

事務局　　北斗市総務部総務課交通防災係
電話 73－3111（内線 212～２１４）　　メール bosai@city.hokuto.hokkaido.jp